

県内首長インタビュー④

白岡市 小島 卓 市長 (76歳)



市制施行から4年目を迎えた小島市長
これからも地域資源を発信し、市民と共に白岡市をPRしていきます。

■交通の利便性をまちの活性化につなげる

白岡市は2009年に人口が5万人を超え、2012年10月1日に市制が施行された県内で一番新しい市です。全国的に人口が減少傾向にあるなかで、一町単独での新市の誕生は、県内では吉川市以来16年ぶりのことです。

白岡市の人口は、市制施行後も年々増加しています。この大きな要因としては、武蔵野の豊かな自然を残しつつ、生活都市としての整備が進んだ住みやすい環境があることがあげられます。東洋経済新報社が全国813市区を対象に調査した「住みよさランキング」でも常に上位に位置し、2014年の調査結果では、県内第1位（2015年は第3位）を獲得しています。

交通の利便性も、人口増加の要因のひとつです。特に2015年は、鉄道・道路の双方で交通の利便性が大きく向上した年となりました。3月には、JR上野東京ラインが開業し、市内のJR宇都宮線白岡駅・新白岡駅から東京駅への直接乗り入れが可能となったほか、主要幹線道路「都市計画道

路篠津柴山線」が全線開通し、市内の東西交通の利便性が向上しました。

さらに、10月には首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の白岡菖蒲ICから桶川北本IC間が開通し、県内の圏央道が全線開通となりました。これにより、東北道、関越道、中央道、東名高速が圏央道で結ばれ、県内・市内への経済波及効果に期待が高まっています。圏央道白岡菖蒲ICからアクセスが便利な「白岡西部産業団地」は、分譲の開始とほぼ同時に完売しました。この産業団地だけでも約1,300名の雇用が創出され、経済波及効果は約500億円と試算されています。

白岡市は、圏央道の開通により、土地の有効活用や新たな雇用創出、人口の増加など、うるおいとやすらぎの生活未来都市として発展を続ける街として大きな注目を集めています。

■河川のまち 白岡

埼玉県は、県土面積に占める河川の面積が3.9%と全国一で、河川は暮らしに密接した存在となっています。白岡市にも29本もの河川があり、そのうちの7本が一級河川です。また、柴山伏越をはじめとする全国的にも珍しい「河川立体交差」が9か所も存在しています。

市内には、古い地層から発見された古代蓮が自生し、「ふるさとの森」が数か所あるなど多くの自然が残るほか、市内の大山地区には、元荒川の下浸作用によって形成された「柴山沼」があります。「柴山沼」は、県内の自然沼としては2番目に大きく、その面積は12.5ha、水深は約8mに及びます。

柴山沼は、1992年から始まった「県営水環境保全事業」によるビオトープ（生態系の保全、復元）の整備や観光協会による花植活動などにより、人が集う憩いの場になっています。



市内には、全国的にも珍しい河川立体交差「伏越」が9か所（写真上は柴山伏越）も存在するほか、柴山沼など、豊かな水辺空間が広がります。また、毎年7月ごろから花を咲かせる古代蓮の種類は、約1,200年前の「大賀蓮」と推測されています。

梨の収穫カレンダー (天候によって変わる場合があります。)

	8月	9月	10月	11月	12月
幸水 (こうすい)	■				
豊水 (ほうすい)		■			
彩玉 (さいぎょく)			■		
あきづき		■			
新高 (にいたか)			■		
新興 (しんこう)				■	
新雪 (しんせつ)					■



4月になると梨農園では白い梨の花が満開になります。そして8月の幸水の収穫から始まり、12月中旬まで梨の味覚を味わうことができます。みずみずしい梨を加工した特産品も数多く販売され、お土産や贈り物としても大人気です。

また、柴山沼は釣り場としても有名で、市内外から多くの釣り人が年間を通じて訪れます。

■梨のまち 白岡

白岡市といえば、「梨」を思い浮かべる方も多いと思います。「白岡美人」と呼ばれる白岡産の梨は、明治時代から栽培されていて、現在でも県内有数の生産量を誇っています。

白岡市内での栽培品種は、「幸水」と「豊水」が全体の生産量の大半を占めていますが、この2種以外にも、埼玉県で開発された埼玉ブランドの「彩玉」、高糖度で果汁が豊富な「あきづき」、果実の重さが500gもある「新高」、甘味と酸味を兼ね備えた「新興」、1kg近くにまで成長するジャンボ梨の「新雪」など、様々な種類の梨が栽培されています。

収穫は「幸水」から始まりますが、それぞれの収穫時期が少しずつ異なるため、8月上旬から12月中旬までの間、白岡産の梨を楽しむ事ができます。市内では、この特産の「梨」を使用した、和菓子や洋菓子、アイスクリーム、リキュール類等、多くの加工品が販売されるなど、「梨のまち」として市を挙げてPRしています。

白岡市のマスコットキャラクターの「なしべえ」と「なしりん」もその名のとおり梨をモチーフにしています。また、市の花も、毎年4月中旬に開花する白い梨の花です。まさに梨づくしの白岡市ですが、市の農産物直売所では、これらの梨のほかに、水の恵みを受

白岡市の概要

人口 (H28年1月1日・住民基本台帳)	52,035人
世帯数 (同上)	20,387世帯
平均年齢 (同上)	45.0歳
生産年齢人口比率 (H27年埼玉県(丁)字別人口調査)	63.1%
面積 (H26年全国都道府県市区町村別面積調)	24.92km ²
名目市内総生産 (H24年度市町村民経済計算)	1,070億1,800万円
製造品出荷額等 (H25年工業統計)	475億9,175万円
事業所数 (H26年経済センサス)	1,448事業所

けた特別栽培米の「コシヒカリ」や「彩のかがやき」「キヌヒカリ」「ミルキーQueen」などがあり、梨と同じようにブランド化を推進中です。

さらに「桃太郎」や「ごほうび」などのトマト栽培も盛んで、白岡市では、特産の梨と併せて、米とトマトを「白岡市の三大ブランド商品」として広くPRしています。2013年に農商工連携の推進により開発された市内産のトマトを使用したレトルトカレー「白岡の太陽トマトカレー」は、1袋に1個の完熟トマトが使用されていて、トマトの旨みと酸味、そしてスパイスが融合したまろやかな味わいで人気を博しています。

■「いとおかし、しらおかし」

2015年は「地方創生元年」となり、地方自治体にとって自治経営能力の真価が問われる年がスタートしました。2008年11月に就任して2期目の小島市長は、国の政策を座して待つのではなく、白岡市に即した政策を実施して、市長や職員、議会はもちろん、市民も一体となった、市民主体のまちづくりを推進しています。

また、白岡市では、「市民満足度の向上」「知名度の向上」「交流人口の増加」「定住人口の増加」「企業進出の促進」をめざして、地域の魅力を高めるための白岡市シティプロモーション戦略が始動しています。「趣がある」という枕草子などに出てくる古語を組み込んだブランドメッセージ「いとおかし しらおかし」のもとに、白岡市に「住み続けたい・行ってみたい」と感じられるよう、市の魅力を発信していきます。